



関東大震災から100年 災害対策に拍車がかかる

2023年は、関東大震災が発生してちょうど100年目に当たります。今回の日合商解説（vol.70）では、この節目の年に関連して、日本政府や地方自治体がさまざまな施策を打ち出していますのでその概要や、防災リフォーム等について解説します。

巨大な地震や自然災害も予想される中、今年は災害対策に対しての意識も高まるタイミングです。

INDEX

- ① 関東大震災は歴史上最大級の災害の一つ
- ② これまでの災害規模について
- ③ 制度の施行に向けた環境整備の検討状況
- ④ 防災リフォームが急増しています！

① 関東大震災は歴史上最大級の災害の一つ

関東大震災（1923年9月1日）は、日本の関東地方を中心に発生した大規模な地震です。日本の歴史上最大級の災害の一つであり、都市の建築基準や防災意識の見直しを促しました。また、復興の過程で新たな都市計画や建築手法が導入され、日本の防災・減災対策の基盤が築かれる契機となりました。この地震によって全半潰・消失・流出・埋没の被害を受けた住家は総計37万棟にのぼり、死者・行方不明者は約10万5000人に及ぶなど、甚大な被害をもたらしました。



② これまでの災害規模について

| | 関東大震災 | 阪神・淡路大震災 | 東日本大震災 |
|----------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 発生日 | 1923年（大正12年）9月1日 土曜日 午前11時58分 | 1995年（平成7年）1月17日 火曜日 午前5時46分 | 2011年（平成23年）3月11日 金曜日 午後2時46分 |
| 地震規模 | マグニチュード M7.9 | マグニチュード M7.3 | モーメントマグニチュード Mw9.0 |
| 直接死・行方不明 | 約10万5千人 （うち焼死 約9割） | 約5,500人 （うち窒息・圧死 約7割） | 約1万8千人 （うち溺死 約9割） |
| 災害関連死 | — | 約900人 | 約3,800人 |
| 全壊・全焼住家 | 約29万棟 | 約11万棟 | 約12万棟 |
| 経済被害 | 約55億円 | 約9兆6千億円 | 約16兆9千億円 |
| 当時のGDP | 約149億円 | 約522兆円 | 約497兆円 |
| GDP比 | 約37% | 約2% | 約3% |
| 当時の国家予算 | 約14億円 | 約73兆円 | 約92兆円 |

出典：諸井・武村（2004）『日本地震工学会論文集』第4巻第4号、東京市役所（1926）『東京震災録：前編』、一橋大学社会科学統計情報研究センター『長期経済統計データベース』、気象庁、警察庁、消防庁、復興庁、国土庁、内閣府、財務省、兵庫県資料をもとに内閣府防災担当作成

③ 制度の施行に向けた環境整備の検討状況

1. 防災意識の啓発

政府や自治体は、関東大震災の教訓を踏まえ、地震や災害への備えや防災意識の重要性を啓発する取り組みを行っています。災害時の適切な行動や緊急時の連絡手段など、地域住民の防災能力を高めるための情報提供や啓発活動が行われています。

2. 都市の防災対策

関東地方や他の地域で都市の防災対策が強化されています。耐震化や建築基準の見直し、防災設備の整備、避難施設の充実など、地震や災害に対する都市の強靱化が進められています。

3. 歴史的建築物の保全と記念施設の整備

関東大震災の遺構や記念施設の保全と整備が行われています。被災地の歴史的な建築物や遺構の保存、震災記念館やモニュメントの整備などが進められています。

4. 災害対応能力の強化

防災・減災分野における研究開発や技術の進歩、災害予測・警戒システムの充実など、災害対応能力の強化が行われています。地震や津波などの災害リスクに対する科学的な理解と予測技術の向上が進められています。

住宅業界の最新情報を常に発信

コンサルティング・WEB講演会
ホームページまでお問い合わせください

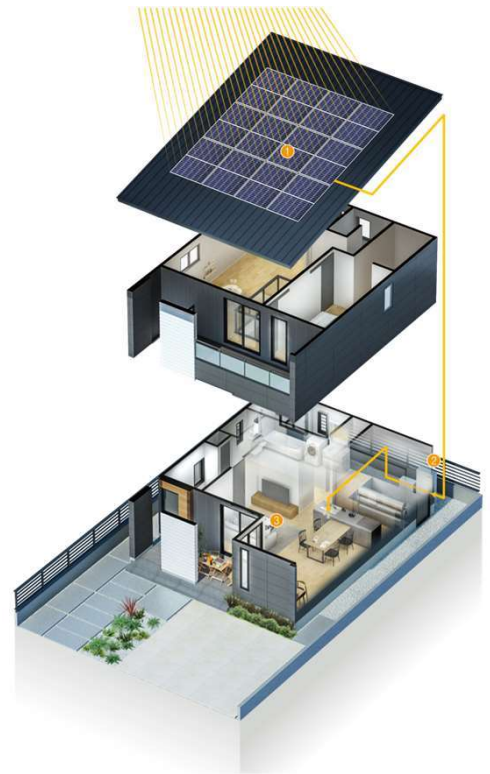
SHIMIZU HIDEO JIMUSHO

https://au-shimizu.co.jp/seminar_colum



④ 防災リフォームが急増しています！

根本的な防災対策と災害が発生した後の生活を守る減災対策の両方が必要とされており、それに通じるリフォーム工事も徐々に増えてきている傾向です。太陽光発電や蓄電池等の工事提案は、環境配慮・省エネルギーにも繋がり、電気の自給自足に直結するので一石二鳥の提案になります。水についても災害対策のポイントになります。上水道を貯めておくことが出来るタンク等の設置も要望が増えています。特に避難生活が困難な高齢者やペットを飼われている世帯等からその傾向が増えているようです。



●その他の災害対策のポイント

1. 建物の耐震性を高めるために、耐震設計を導入することが重要です。建物の構造材料や接合部を補強し、地震に対する耐久性を向上させるリフォームを検討しましょう。
2. 窓ガラスを強化して、地震時に割れてケガをするリスクを軽減することが重要です。耐震性の高い窓ガラスに交換したり、補強フィルムを貼ったりする対策があります。
3. 非構造部分の補強も忘れずに行いましょう。家具や棚、照明器具などを固定し、地震時に倒れたり転倒したりするリスクを軽減します。
4. 火災への対策も重要です。火災報知器や自動消火装置の設置、火災の早期発見と避難を支援する設備の導入など、火災発生時の被害を最小限に抑える対策を検討しましょう。
5. 避難経路を確保することも大切です。避難経路や避難所のマーキングを行い、緊急時に安全な場所への移動を円滑にするために、通路の確保や障害物の撤去、非常用の照明設備の設置などを考慮しましょう。